

古民家再生の 技術が見える “生きた”展示場

「重厚な梁や、表情豊かな塗り壁、温もりを感じる無垢材」、
「移りゆく時間と共に表情を変え、
風格と深みを出す自然素材の素晴らしさを
体感できるモデル住宅を訪れました。」



古民家再生の技術と 素材の経年美を体感

松のどっしりとした梁の下に広がる、高級旅館のような空間。その角で存在感を放つ薪ストーブは、パチパチと心地よい音を奏でながら、柔らかな温かさで室内を包み込む。ここは、数々の古民家再生を手がける「ワスランド社」のモデル住宅「和の家吉木」。大宰府にほど近い集落の角に構え、周囲のどかな景色とも見事に融合している。訪れた人が皆、「口を揃えるのは「なんだか落ち着く」「ほっとする」という感想。それはおそらく、随所に盛り込まれた和の設えと、古民家を再生した木造住宅ならではの趣が感じられるからだろう。

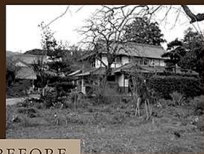
「この家は昭和初期に建てられた建物で、築年数は90年を超えています。20年前に私たちがフルリノベーションして再生させました」と教えてくれたのは、同社代表の三上信比古さん。昔ながらの田の字型で仕切られた和室をひと続きの大空間に広げ、長きにわたって天井の裏でひっそり

と家を支えていた立派な松の梁をあらわに。室内には無垢材と漆喰の壁をふんだんに取り入れ、古民家に精通した熟練職人が手を加えることで息を吹き返した。改装して20年経った今でも建物の劣化はほとんど見てとれず、むしろ時間が経つごとに増す経年美を感じることが出来る。新築のモデル住宅とは異なり、時間が経つと床材や壁材がどう変化していくのかがリアルな変化を見ることが出来るので、リノベーションを考えている方にはまさにうってつけの展示場とも言える。

和モダンを極めた
美しい日本の住まい



昭和初期に建てられた築90年の民家を全面的にリノベーション。「ハウスマインド社」の経験豊かな大工職人が8カ月におわたって改修を進めた。外壁にも西洋漆喰をふんだんに取り入れていることも特徴



BEFORE

徹底して自然素材にこだわった「和の家吉木」。自然のものゆえ、木材が取替したり経年劣化が起これたりもするが、耐久性にはまったく問題はなく、色や質感の変化を愛でるのも楽しみだ



寝室を想定した2階の個室。自然素材が織りなす落ち着いた雰囲気のある空間には、レトロなアンティーク家具や間接照明が抜群に良く似合う